



青柳園だより

2025年
5月号
文京区立青柳幼稚園

子ども同士がつながって、豊かな体験を

主任 樋谷 桃代

入園・進級してから1か月が経ちました。子どもたちは、先生と一緒に遊んだり、新しい遊具に興味津々で関わったり、生き物と触れ合ったりしながら少しずつ園生活に慣れてきました。入園式の翌日から年長ゆり組の子どもたちは、初めての登園でドキドキしている年少も組の子どもたちに、朝の支度をやさしく、丁寧に教えています。しかし、初めから上手に教えらる子どもだけではありません。教えてもらう方が初めてならば、教える方も初めてです。「何を教えてあげたら良いのだろう?」「何て言ってあげたら良いのだろう?」「途中で泣き始めちゃったらどうしよう?」と、教える側もドキドキの入園式翌日でした。「帽子とかばんはどこに置いたらいいか教えてあげてね」「コップとタオルをかけたら、次は何をやるか教えてあげてね」など、先生の助けを借りながら、少しずつ手伝い方を学んでいきます。始めはドキドキしていた教える側のゆり組の子どもたちも、繰り返したり友達の教えている様子を見たりしているうちに、何をどう教えれば良いかが分かってきました。『教える』という難しそうなことは、実は自らがもも組の時から繰り返し行ってきたことだと気づき、進んで張り切って教えてくれるようになりました。優しく園服の一番上のボタンを外してくれたり、名札を着けてくれたりするゆり組がいることで、もも組の子どもたちも安心して幼稚園での生活のスタートを切ることができました。



遊びの中では、早速ゆり組のアイドルショーにもも組を招待したり、ラーメン屋さんがもも組まで出前に行ったり、自然に学年を超えた交流が行われています。

少人数の学級でも学年を超えて様々な人との関わりを通して互いに学ぶことができます。その中では決して快の感情だけではなく不の感情を味わうこともあるかもしれませんが、幼児が自分の気持ちを調整していくことや相手の気持ちを知るようになるためには必要な経験でもあります。

青柳幼稚園の子どもたちはとても意欲的に遊びに取り組んでいます。遊びの種類や展開の幅が広がるように、これからもいろいろな人との関わりが豊かになるような計画をしています。今年度は、『ごっこ遊びの充実を目指して』をテーマに園内研究に取り組んでまいります。ごっこ遊びが面白くなるために、教師の援助や環境の工夫を探っていきます。

また、5月には小学校の運動会に参加することや、ゆり組と大塚保育園の年長児との交流も予定しています。園が、子どもたちが健やかに成長する場、保護者の皆様にとっても楽しい場であるよう一日一日を大切に過ごしていきたいと思っております。

